

## シリケンイモリ

投稿日：平成 21 年 6 月 26 日  
会員投稿：石橋 正彦

イモリをご存知かな？あ、家の壁に張り付いている奴？いえ、あれはヤモリ。ヤモリは爬虫類で、イモリは両生類。ヤモリは鳥の卵を小さくしたような卵を産むが、イモリは蛙の卵みたいな卵。卵から孵るとおたまじゃくしになり、鰓が外に出て、ウーパールーパー様になる。とにかく全く違う。

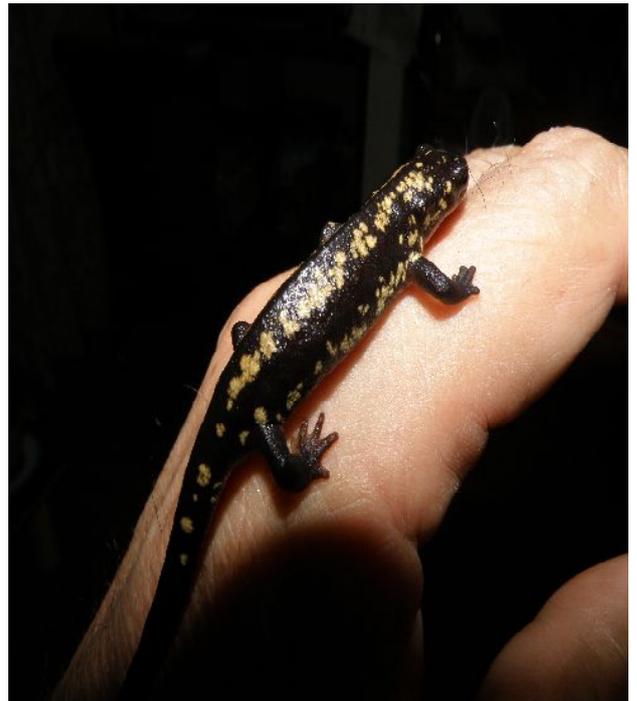
卒業生の友人が、引越しのため飼えなくなったから貰ってほしい、ということで水槽に入った2匹のイモリが我が家に来たのは8ヶ月位前。お腹が赤くて背中が真っ黒なアカハライモリは知っていたが、これは名前すら知らなかった。我が家の新入りは尻尾が長くて、背中は灰色。お腹の赤も薄い。おまけに背中に何だかカビが生えたような白い斑紋がある。これがシリケンイモリ（漢字では尻剣井守）で沖縄や奄美原産の由。アカハライモリと違い、あまり水の中が好きでなく、陸上を歩き回るので、DOR（Death On the Road：要するに交通事故死）の個体がよく見つかるそうだ。彼等が旧飼い主のもとにどのようにして来たかは、聞き漏らした。

餌はカメの餌を時々やればよいとのことで、少々餌と共に我が家に来て、イーちゃん、モーちゃんとな付けられた。もう1匹いればリーちゃんとなるのであろうが、そこまではいかない。単純な名前の命名者はわが家の上司で、私ではない。

小さな水槽に小砂利を入れ、水面が三分の一くらいになるようにして食卓の上に置いて飼っている。見ていると水槽の壁をよじ登り、また突然落下したりする。見ていないときに落下音が、どさっ、でなく、とさっ、という位に聞こえ、存在を主張することがある。人間だったら自分の身長4倍位の所から落ちれば只では済まないのに、平気な顔をしている。いつもふやかした小さなペレット状の亀の餌をやるのだが、蓋を開けると早くくれ、とばかり見上げて見つめてくる。小柄なモーちゃんの方は餌の食べ方が下手で、時にイーちゃんに取られてしまう。どうってことは無いのだが、可愛い物である。

我が家の住人になってから2ヶ月程したある日、2匹揃って脱走した。水槽の蓋がきちんと閉まっていなかった為か、水槽の中は空っぽ。驚いて周囲を見回したがいない。幸いなことに床を散歩しているのが間もなく見つかり、またもう1匹も笹筒の陰に潜んでいるのを見つけた。見つからなかったらそれこそイモリの木乃伊がいずれ発見される場所であった。その後は蓋がきちんと閉まっているのを必ず確認することにしたので、彼らが散歩を楽しむ機会は今のところない。

脱走後間もなく、小さい方のモーちゃんの様子がおかしくなった。右前肢つまり腕全体が異様に腫れてブワブワになり、白っぽくなって体に張り付いている。脱走の際に食卓から飛び降りて（あるいは落下して）骨折でもしたか、とにかく異常だった。更に体の他の部分までおかしくならないように



と考え、鉋で肩の付け根の少し下で腕を切り落とした。つまり外科的処置である。その時は消毒薬を付けて終わったが、やがて1ヶ月程すると切り口が膨らんできた。その内にその先が尖ってきた。さらにである。次第に腕が伸びてきた。やがて肘関節が出来、ついには掌の形が出来、指まで出てきた。写真で分かるようにもうすぐ元の指の状態にまで修復できそうである。これは凄いことである。下等動物が組織や器官の再生能力を持つことは知識の片隅にあったが、丸ごと腕一本の再生を目の辺りに見る事が出来るとは。彼等に比べると、我等が人間の惨めさよ。歯が痛いだけで我慢が出来ない。せめて歯だけでも再生能があれば、と思うのだが。

これからの再生医学の焦点はイモリの再生能であろうと我が家では話し合っている。多分もう誰かがとっくに取り組んでいることだろうが。

いろいろなことを考えながら今日もイモリ達と戯れている。